

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年5月12日 (2016.5.12)

【公開番号】特開2013-236914(P2013-236914A)

【公開日】平成25年11月28日 (2013.11.28)

【年通号数】公開・登録公報2013-064

【出願番号】特願2013-58313(P2013-58313)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 0 6 D

A 6 3 F 7/02 3 0 1 C

A 6 3 F 7/02 3 3 4

【手続補正書】

【提出日】平成28年3月18日 (2016.3.18)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

非磁性体として構成された遊技球である正規遊技球を用いて遊技を行う弾球遊技機であって、

遊技者の操作に応じて遊技球を遊技領域に発射する発射装置と、

遊技球を前記発射装置に誘導する誘導手段と、

前記誘導手段に誘導される遊技球の中から、磁性体として構成された不正遊技球を検出する検出手段と、

前記検出手段により検出された前記不正遊技球を、前記発射装置に誘導される遊技球の中から取り除く除去手段と、

を備え、

前記誘導手段は、床部を流下する遊技球を前記発射装置に誘導すると共に、該遊技球に混入された前記不正遊技球を磁力により天井部に付着させる除去区間を有する誘導経路として構成されており、

前記弾球遊技機は、予め定められた数の前記正規遊技球を循環的に使用して遊技を行う封入式の弾球遊技機として構成されており、

前記誘導手段は、前記発射装置により前記遊技領域に発射された遊技球を回収すると共に、回収した遊技球を前記発射装置に誘導すること、

を特徴とする弾球遊技機。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の弾球遊技機において、

前記除去区間は、

床部を流下する前記正規遊技球との衝突により前記天井部に付着した前記不正遊技球を流下させることができるよう、前記床部と前記天井部との間隔が調整されており、前記正規遊技球と共に流下する前記不正遊技球を前記天井部に付着させることで前記検出手段をなす上流側区間と、

該上流側区間の下流側に位置し、前記天井部に付着した前記不正遊技球が前記床部を流下する前記正規遊技球に接触しないよう、前記床部と前記天井部との間隔が調整されてお

り、前記正規遊技球の流下を遮ることなく前記天井部に前記不正遊技球を付着させておくことで、前記除去手段をなす下流側区間とを有すること、  
を特徴とする弾球遊技機。

【請求項 3】

請求項 2 に記載の弾球遊技機において、  
前記不正遊技球が遊技に用いられないように収容する収容部と、  
磁力により外側面に前記不正遊技球を付着させることができる無端ベルトを有すると共に、該外側面が前記下流側区間の前記天井部の少なくとも一部をなし、前記下流側区間に到達した前記不正遊技球を前記外側面に付着させ、前記収容部に向けて搬送する搬送手段と、

前記無端ベルトの前記外側面に付着した前記不正遊技球を剥離させ、前記収容部に移動させる剥離手段と、

をさらに備えることを特徴とする弾球遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

上記課題に鑑みてなされた請求項 1 に係る発明は、非磁性体として構成された遊技球である正規遊技球を用いて遊技を行う弾球遊技機に関するものである。この弾球遊技機は、遊技者の操作に応じて遊技球を遊技領域に発射する発射装置と、遊技球を発射装置に誘導する誘導手段と、誘導手段に誘導される遊技球の中から、磁性体として構成された不正遊技球を検出する検出手段と、検出手段により検出された不正遊技球を、発射装置に誘導される遊技球の中から取り除く除去手段と、を備える。

そして、誘導手段は、床部を流下する遊技球を発射装置に誘導すると共に、該遊技球に混入された不正遊技球を磁力により天井部に付着させる除去区間を有する誘導経路として構成されている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

ところで、内部に封入された遊技球を循環的に使用する封入式の弾球遊技機が知られているが、現状では、遊技者により上皿から供給された遊技球を用いて遊技が行われ、賞球として得られた遊技球が排出される非封入式の弾球遊技機が主流となっており、このような非封入式の弾球遊技機では、通常、磁性体の遊技球を用いて遊技が行われる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

このような非封入式の弾球遊技機では、遊技球がフロアに落下してしまう場合が多々あり、パチンコ店の従業員により、先端に磁石が設けられた棒状の回収装置を用いてフロアに落下した遊技球の回収作業が行われている。このため、仮に非封入式の弾球遊技機にて非磁性体の正規遊技球のみを用いるとした場合、従来のように回収装置を用いてフロアに落下した遊技球の回収作業を行うことができなくなる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0012  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0012】

そこで、請求項1に記載の弾球遊技機は、予め定められた数の正規遊技球を循環的に使用して遊技を行う封入式の弾球遊技機として構成されており、誘導手段は、発射装置により遊技領域に発射された遊技球を回収すると共に、回収した遊技球を発射装置に誘導する。

【手続補正6】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0013  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0013】

このような封入式の弾球遊技機によれば、通常は遊技者が遊技球に触れることは無いため、遊技球がフロアに落下することは殆ど無く、ごく稀な場合にしか上記回収作業が行われることが無いと考えられる。このため、非磁性体の正規遊技球を用いることの弊害を防ぐと共に、稼働率の低下や、パチンコ店の従業員の作業負担の増加を防ぎつつ、磁石等を用いたゴト行為を防止することが可能となる。

【手続補正7】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0014  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0014】

請求項2に記載の弾球遊技機は、除去区間は、床部を流下する正規遊技球との衝突により天井部に付着した不正遊技球を流下させることができるよう、床部と天井部との間隔が調整されており、正規遊技球と共に流下する不正遊技球を天井部に付着させることで検出手段をなす上流側区間と、該上流側区間の下流側に位置し、天井部に付着した不正遊技球が床部を流下する正規遊技球に接触しないよう、床部と天井部との間隔が調整されており、正規遊技球の流下を遮ることなく天井部に不正遊技球を付着させておくことで、除去手段をなす下流側区間とを有している。

【手続補正8】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0015  
【補正方法】変更  
【補正の内容】  
【0015】

このような構成によれば、不正遊技球が検出された場合であっても、正規遊技球を発射装置に誘導して遊技領域に向けて発射することができ、パチンコ店の従業員等が不正遊技球を取り除く等の作業を行わなくても、遊技者は遊技を継続することができる。また、該作業により遊技が中断することが無いため、弾球遊技機の稼働率の低下を防ぐことができる。また、仮に不正遊技球が混入されたとしても、閉店後等の時間の余裕がある時に不正遊技球を取り除く作業を行うことができ、パチンコ店の従業員は、慌てることなく、確実に不正遊技球を取り除くことができる。

【手続補正9】  
【補正対象書類名】明細書  
【補正対象項目名】0016  
【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 1 6 】

したがって、稼働率の低下や、パチンコ店の従業員の作業負担の増加を防ぎつつ、磁石等を用いたゴト行為を防止することが可能となる。

また、仮に不正遊技球を検出した際に警告を発したり遊技を中断させる場合には、遊技者がゴト行為を意図していないにも関わらず、他人が混入させた不正遊技球により警告等がなされるおそれがある。このため、一般の遊技者に不快な思いをさせる可能性があり、遊技者とパチンコ店との間でトラブルが生じるおそれがある。

## 【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 7

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 1 7 】

これに対し、請求項 1 に記載の弾球遊技機によれば、警告等を行うこと無く上記ゴト行為を防ぐことができ、一般の遊技者に迷惑をかけることが無い。また、上記ゴト行為を意図して不正遊技球が混入されたとしても、秘密裏に事態を収拾することができ、パチンコ店のイメージダウンを防ぐことができる。

## 【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 1 8 】

また、請求項 2 に記載の弾球遊技機によれば、除去区間に到達した正規遊技球は、床部を流下して発射装置に誘導される。一方、除去区間に到達した不正遊技球は、天井部に付着した状態で上流側区間を流下すると共に、床部を流下する正規遊技球により押し出されるように下流側区間に到達し、下流側区間の天井部に付着した状態で保持される。

## 【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 1

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 2 1 】

そこで、請求項 3 に記載の弾球遊技機は、不正遊技球が遊技に用いられないように収容する収容部と、磁力により外側面に不正遊技球を付着させることができる無端ベルトを有すると共に、該外側面が下流側区間の天井部の少なくとも一部をなし、下流側区間に到達した不正遊技球を外側面に付着させ、収容部に向けて搬送する搬送手段と、無端ベルトの外側面に付着した不正遊技球を剥離させ、収容部に移動させる剥離手段と、をさらに備える。

## 【手続補正 1 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 0

【補正方法】変更

## 【補正の内容】

## 【 0 0 3 0 】

また、弾球遊技機には、発射装置に遊技球を一つずつ供給する球送り装置が設けられており、発射装置から発射される遊技球（遊技に用いられる遊技球）は、必ずこの球送り装置を通過する。

## 【手続補正 1 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0031

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0031】

そこで、弾球遊技機は、不正遊技球が遊技に用いられないように収容する収容部と、誘導手段により誘導される遊技球を一つずつ発射装置に供給する球送り装置と、を備えても良い。そして、球送り装置は、発射装置に供給する遊技球が不正遊技球であるか否かを判定することで、検出手段として機能させると共に、不正遊技球であると判定された遊技球を収容部に収容することで、除去手段として機能させても良い。

【手続補正15】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0032

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0032】

このような構成によれば、発射直前の遊技球に対し不正遊技球か否かの判定を行うことができるため、どのような場所から不正遊技球を混入させたとしても、確実に不正遊技球を検出することができる。そして、検出された不正遊技球は収容部に収容されて隔離された状態となり、遊技に用いられることは無い。また、ゴト師（ゴト行為を行う者）から、ゴト行為の道具の一つである不正遊技球を取り上げることができるため、他の弾球遊技機で同様のゴト行為が行われることを抑止することができる。

【手続補正16】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0033

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0033】

したがって、稼働率の低下や、パチンコ店の従業員の作業負担の増加を防ぎつつ、磁石等を用いたゴト行為をより確実に防止することが可能となる。

【手続補正17】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0153

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0153】

第二実施形態におけるパチンコ機1が弾球遊技機に、誘導経路40が誘導手段に相当する。

また、第二実施形態における除去経路の上流側区間が検出手段に、下流側区間が除去手段に相当し、搬送装置56が搬送手段に、剥離部材44が剥離手段に相当する。